

# 実践と理論の 専門性を確実に高める

## 鳴門教育大学教職大学院



学校教育研究科(専門職学位課程)高度学校教育実践専攻

2011年ガイドブック

## 学長あいさつ



鳴門教育大学長 田中雄三

平成20年度、鳴門教育大学は新しく教職大学院を設置しました。教職大学院は、現在の学校教育の中で起こる様々な課題や問題に対して、的確に対応する幅広い教育実践力と問題解決力を備えたすぐれた教員を養成することを主眼とした教職のための新しい専門職大学院です。

本学は、創設以来、教育大学として何よりも確かな実践力を身につけ、かつ人間的な魅力を備えた教員を育て上げ、社会に送り出すことを最大の社会的使命としています。法人化後、鳴門教育大学は「教育の一番札所」を合い言葉にして、そのための不断の努力を重ねてきました。「教育の一番札所」はここ鳴門の地が四国八十八カ所、癒しの道の振り出しの地であるように、日本のこれからの教育は、私たちの鳴門教育大学から始まるのだという、意気込みや大学としての自己主張を示したものです。

教職大学院は、そうした鳴門教育大学の向かうところの理念や目標に合致するものです。そのため、大学内で議論するとともに、学校現場や教育委員会と密接に連携しながら、特色ある教職大学院を作り上げ、設置後も、大学院生、教育委員会関係者の意見を伺い、改善を図ってきました。

本学の教職大学院は、学生一人一人が生きた教育実践力を自らのものにするため、学校と強く連携した実習科目を始め、教育内容の面でもさまざまな創意と工夫を凝らしています。また、教授スタッフには、教育実践に造詣の深い教員を配置するとともに、学校現場や教育委員会で指導にあたってこられた方を実務家教員として迎えています。質・量ともに恵まれた教授スタッフがスクラムを組んで、教育指導にあたっています。平成22年3月には教職大学院1期生計35人が修了し、各地の学校での活躍が大いに期待されています。

鳴門教育大学の教職大学院は、現在の学校教育や地域社会が求める高度な専門性と実践的指導力を持つ教員の養成と研修の拠点であります。教育への果てしない夢と意欲、そして高い志を持った方々が、本学教職大学院の門を積極的に叩いてくださることを切に願っています。

## 教職大学院とは

現在、様々な専門的職種や領域において、大学院段階でより高度な専門的職業能力を備えた人材の養成が求められています。教員養成の分野においても、教員養成に特化した専門職大学院として「教職大学院」制度の創設が中央教育審議会答申で提言され、これを受けて鳴門教育大学では平成20年4月から、新しく四国で唯一の教職大学院として学校教育研究科内に「高度学校教育実践専攻」を設置しました。

平成22年度より、2年間の取り組み、派遣いただいている教育委員会の意見を踏まえ、カリキュラムの改善を図り、より魅力ある教職大学院となりました。

鳴門教育大学の教職大学院で目指す人材は以下の通りです。

- ①学校や地域において指導的役割を遂行できるリーダー教員の養成
- ②幅広い実践力に優れた新人教員の養成

## 大学院学校教育研究科の概要

専門職学位課程 (50人)	修士課程 (250人)
<ul style="list-style-type: none"><li>● 高度学校教育実践専攻 (50人)<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学校・学級経営コース (10人)</li><li>○ 学校臨床実践コース (15人)</li><li>○ 授業実践・カリキュラム開発コース (15人)</li><li>○ 教員養成特別コース (10人)</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 人間教育専攻 (90人)<ul style="list-style-type: none"><li>○ 人間形成コース (15人)</li><li>○ 幼年発達支援コース (15人)</li><li>○ 現代教育課題総合コース (15人)</li><li>○ 臨床心理士養成コース (45人)</li></ul></li><li>● 特別支援教育専攻 (20人)</li><li>● 教科・領域教育専攻 (140人)<ul style="list-style-type: none"><li>○ 言語系コース (35人)</li><li>○ 社会系コース (20人)</li><li>○ 自然系コース (20人)</li><li>○ 芸術系コース (30人)</li><li>○ 生活・健康系コース (25人)</li><li>○ 国際教育コース (10人)</li></ul></li></ul>
<b>取得学位：教職修士（専門職）</b>	<b>取得学位：修士（教育学）</b>
<b>人材養成の目的</b> 幅広い視点からの問題分析力・対応力・解決力を有し、学校や地域で指導力を発揮できる教員及び実践的対応力に優れた新人教員を養成	<b>人材養成の目的</b> 特定の教科・領域等における専門性を有し、得意分野で優れた実践を展開できる教員を養成

## 教職大学院の特色

鳴門教育大学教職大学院は、理論と実践の両面の専門性を確実に高める教職大学院をめざし、以下の4点の特色を大切にしています。

### 学卒院生，現職教員院生のそれぞれに適した教育の提供

対象に応じたカリキュラム設定（カリキュラムを見直し，より徹底しました）

### 2年間の教育・学習の到達目標の明確化

学びのねらいと成果がよくわかる大学院

### 実習科目を中核としたOJT（On the Job Training）と大学院の専門教育の融合

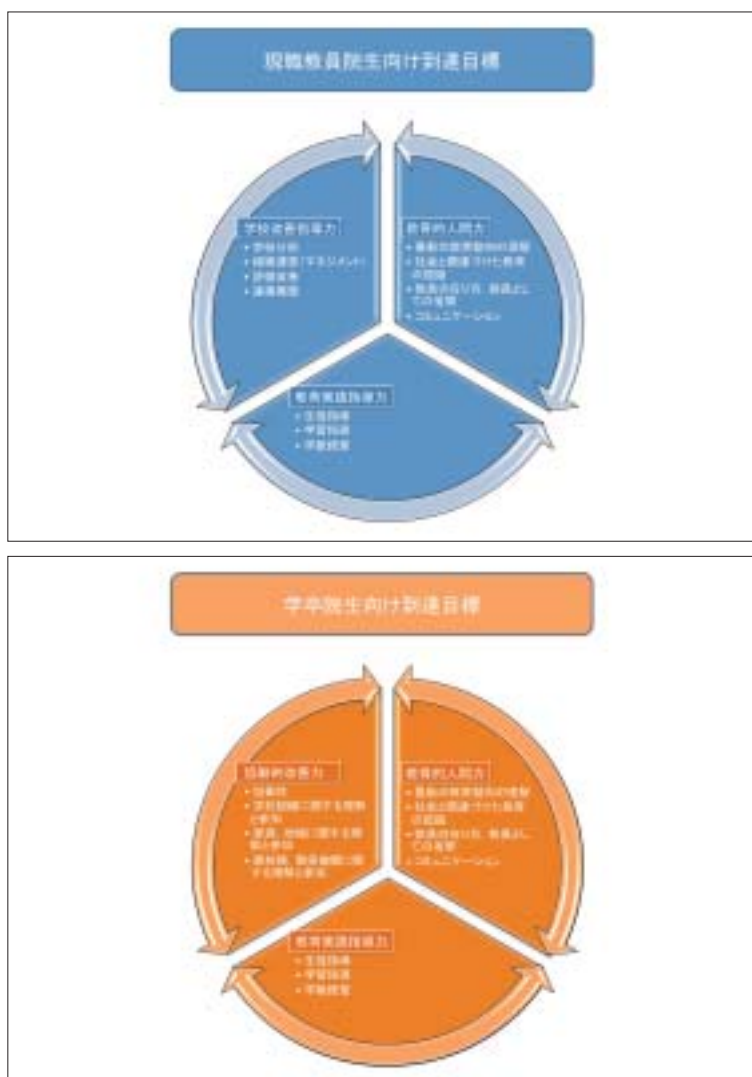
「すぐに役立つ，ずっと役立つ」学びの実現

### 教育活動の組織的な改善を推進する大学院教育

院生も力をつける，学校もよくなる大学院

#### 到達目標（現職，学卒）

教職大学院で2年間学んでいただくことで、以下の3領域11の観点に関する力量を確実に身につけてもらえるよう、カリキュラムを設定しています。



## 教職大学院の教育課程

カリキュラムの特徴として、次の3点が挙げられます。

### キャリアに応じたカリキュラム設計

現職教員院生と学卒院生のキャリアの違いに応じて、授業科目を設定しています。それぞれの専門性を深めるのにふさわしい科目構成となっています。

### 実習科目を中心としたカリキュラム構成

教職大学院では、実習科目を中心にカリキュラムが編成されます。理論と実践の融合を図る教職大学院の目的を、学校の課題の改善という結果で実証していきます。

### 到達目標と関連づけたカリキュラム配置（体系化表）

目標に確実に到達するため、授業科目との関連を明確にし、カリキュラムの体系化を図っています。現職教員院生向けの体系化表を13、14ページ、学卒院生向けの体系化表を15、16ページに掲載しています。

## (1) 共通科目

リーダー教員、新しい学校づくりを推進する教員にとって、共通に理解すべき今日的な教育課題を幅広く学習するために、共通科目として次の5領域を設定しています。

- ①教育課程の編成・実施に関する領域
- ②教科等の実践的な指導方法に関する領域
- ③生徒指導、教育相談に関する領域
- ④学級経営、学校経営に関する領域
- ⑤学校教育と教員の在り方に関する領域

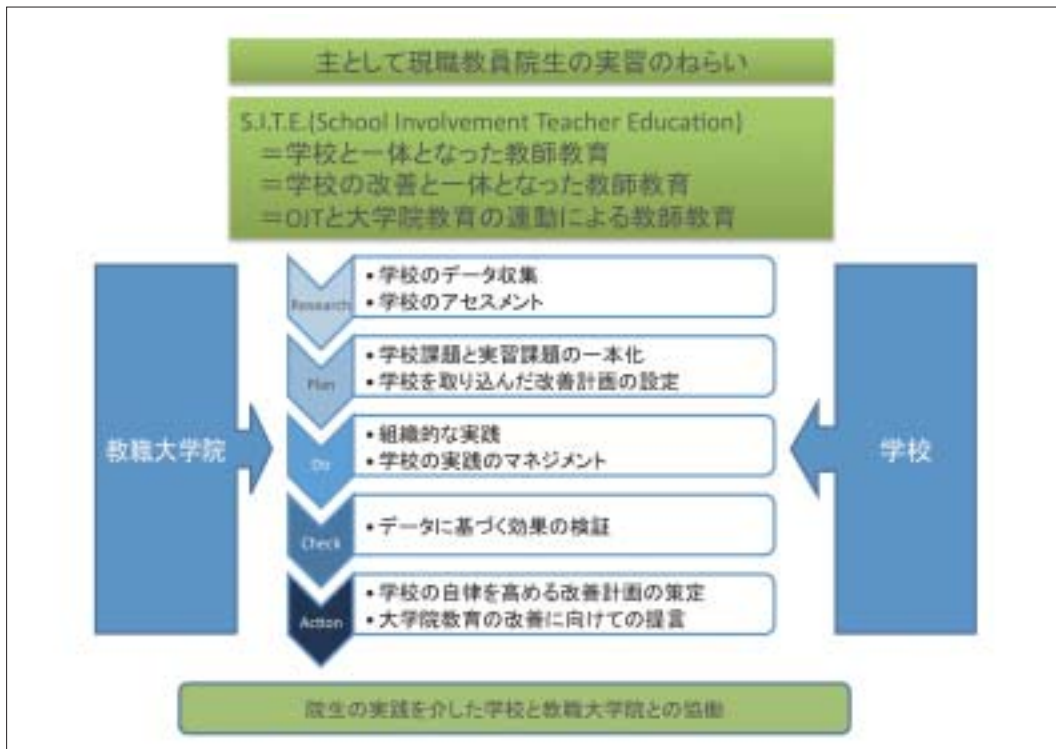
## (2) 専門科目

共通科目を基盤としながら、各自の目指す専門性を深めることが可能なように、①マネジメント、②授業カリキュラム、③学校臨床、④学校教育の今日的課題、⑤教員養成特別の領域を設定し、皆さんと相談しながら、履修科目を決定していきます。現職教員院生の方は①～④の専門科目から、学卒院生の方は④、⑤の専門科目を履修してもらいます。

### (3) 実習科目

#### 主として現職教員院生について

原則として、勤務校の教育課題を教職員とともに共有・分析し、解決を図る一連の活動を行い、リーダー教員としての必要な資質・力量を育成します。



#### これまでの主な実習テーマ

- 学校と家庭・地域との連携関係構築に関する研究 学校と家庭・地域との連携の構築—連携企画チームの活動を通して—
- 学校運営への参画意識を高め、組織力の向上を目指す学校評価の在り方
- 学級経営の見直し・改善と学校の活性化 教職員組織による学級経営の見直しを通じた教育改善への取り組み
- 不登校の早期発見・早期対応と校内支援体制の確立
- 発達障害のある児童の自尊感情とその児童への共感的理解
- 社会適応できる力を伸ばすコミュニケーション力の育成
- 小学校と中学校の円滑な接続を目指した小中連携の方略について—小中授業交流研修会の実践を中心に—
- 小学校における双方向コミュニケーションを基盤とした「心豊かに学び、生きる力を育む学習指導」の実践—学力向上をめざした学校と家庭の連携による学習プログラムを活かした効果的な授業づくり—
- 主体的学習を取り入れた「教えて考えさせる授業」のモデル開発—中学校社会科公民分野の授業を通して—
- 基礎学力を保障する個に応じたよりよい指導の在り方—「言葉の力」の向上を図る手だてや指導（3年）—
- 言語力を高めることを目的とした教材開発

## 教員志望の学卒院生について

実践的教育課題を幅広く理解し、それらに関する対応力を育成するため、連携協力校と密接に連携して、インターンシップ型実習を展開します。



### これまでの主な実習テーマ

- 子どもの自主的・自発的学修を促進する学修モデルについての実践研究
- 学級全員が授業に参加できる発問の工夫
- 児童一人一人に応じた支援の在り方
- 学級担任が実践する外国語活動の実践について
- 児童に学習の意義を感じさせる授業構造について
- 児童同士が相互に高めあえる集団活動を取り入れた授業実践

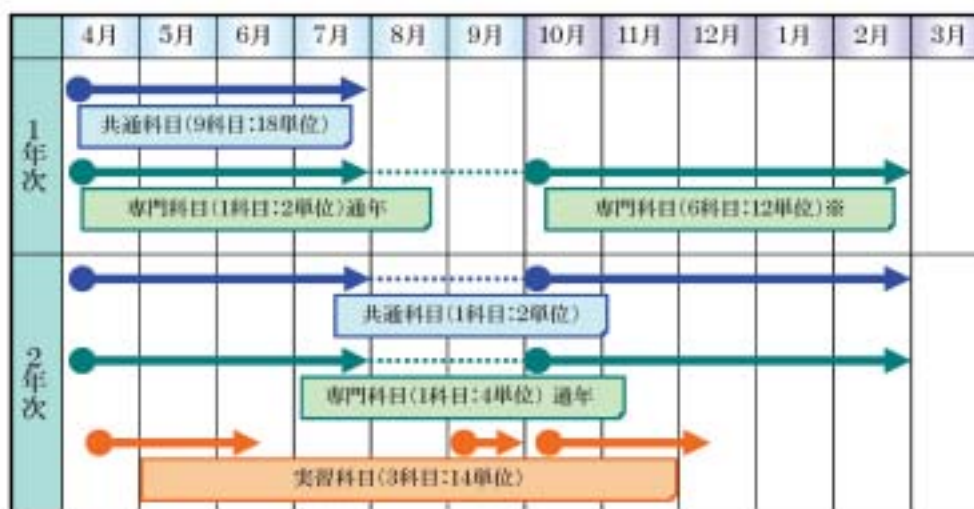
## カリキュラム編成

教職大学院では、実習科目を中心にカリキュラムが編成されます。実習の成果について、共通科目や専門科目で学んだことを活かし、「最終成果報告書」としてまとめます。

### 学校・学級経営コース, 学校臨床実践コース, 授業実践・カリキュラム開発コース

1年次前期に共通科目、後期に専門科目を履修しながら、年間を通して、勤務校の学校課題のアセスメントを行います。2年次は、勤務校での実習を中心に、その成果をまとめるための演習が設定されます。

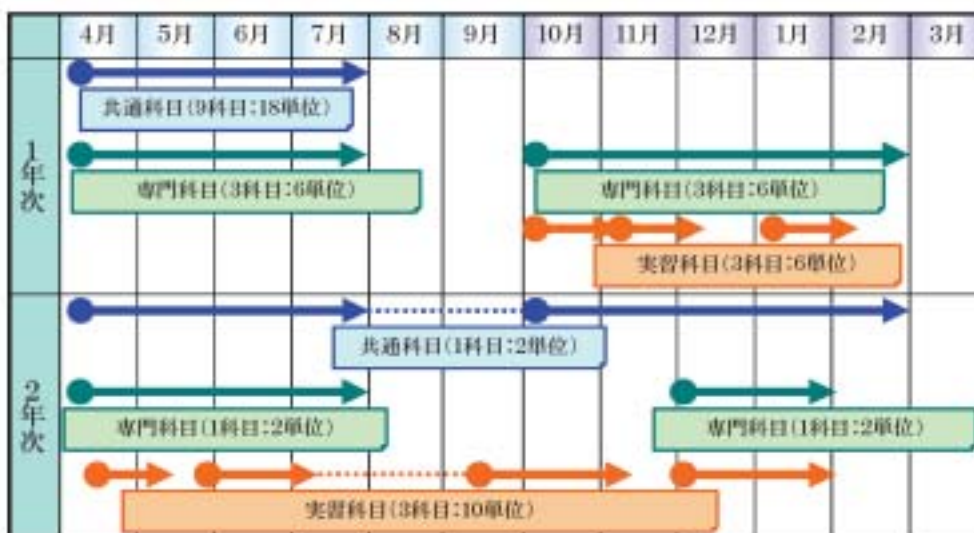
修了要件 共通科目 20 単位, 専門科目 18 単位, 実習科目 14 単位, 計 52 単位以上



### 教員養成特別コース

1年前期に共通科目、専門科目を履修し、1年後期から1年半にわたり、実習を行います。また、実習と連動する演習科目が実習期間中設定されます。

修了要件 共通科目 20 単位, 専門科目 16 単位, 実習科目 16 単位, 計 52 単位以上



## 教職大学院のコースについて

教職大学院には、主として現職教員院生対象の「学校・学級経営コース」「学校臨床実践コース」「授業実践カリキュラム開発コース」と、学卒院生対象の「教員養成特別コース」があります。現職教員院生対象の3コースは、相互に交流しながら、皆さんの専門性を高める工夫をしています。また、現職教員院生と学卒院生もともに学ぶ授業が設定され、教職大学院全体で指導する体制を整えています。

### 要件

#### 「学校・学級経営コース」、 「学校臨床実践コース」「授業実践・カリキュラム開発コース」の出願要件

- ① 3年以上の教職経験を有する者
- ② 社会人（小学校、中学校、高等学校のいずれかの教員免許を有しているが、現在教職に就いていない者でかつ、教職以外の本採用の職に3年以上就いている者）

#### 「教員養成特別コース」の出願要件

① 小学校教諭一種免許状を有するもの（取得見込みの者を含む。）あるいは、② 小学校教諭二種免許状を有する者（取得見込みの者を含む。）であって、幼稚園教諭、中学校教諭、養護教諭のいずれかの一種免許状を有する者（取得見込みの者を含む。）

※ただし、②の者で、小学校教諭二種免許を小学校教諭専修免許に上進するには、3年必要な場合があるので、事前に、大学に相談ください。

### コースの特徴

#### ● 学校・学級経営コース（定員 10 人）

#### 学校経営において中核的な役割を担う教員の養成

学校経営、教育行政、学校危機管理等に関する専門的・実践的な知識と技能を有し、学校組織の運営と改善、学校と家庭・地域との連携等を推進できる教員を養成します。

##### ■ 特色

- 学校教育をめぐるさまざまな問題を、ミクロ（子ども集団）からマクロ（教育行政・政策）までの広い視点で把握できる力量形成を図ります。
- 学校経営・学級経営に関する院生の経験を説明できる理論的知識を習得するとともに、問題を分析し、解決するための方法論の習得をめざします。
- 講義だけの授業ではなく、具体的事例の分析を通じて、習得した理論の適用可能性等について検討するなど、実践志向の授業を行います。
- ティーム・ティーチング、小集団討論、グループワークなどの多様な授業方法により、学生が主体的に関与できるような授業展開を行います。
- 勤務校（院生の課題）について、実務家教員と研究者教員がペアとなり、院生を含めた三者で課題の分析、解決プログラムの検討と設計、プログラムの効果の検証などを行い、その経験を他の実践にも活かすことができる汎用性のある実習を行います。



## ● 学校臨床実践コース (定員 15人)

### 生徒指導・教育相談に関する専門的知識をもつリーダー教員の養成

児童生徒理解，対人関係，コミュニケーション等に関する専門的・実践的な知識と技能を有し，生徒指導・教育相談の分野において学校の指導体制の改善を含めて，学校及び地域の学校群のリーダーとして活躍できる教員を養成します。

#### ■ 特 色

- 生徒指導のリーダー教員としての力量形成を図るため，解決や支援の方向を見通すことができる見立て力や人的・物的環境調整ができるマネジメント力等，実践的応用力を養成するカリキュラム構成です。
- 生徒指導に関わる実践的応用力を養成するため，事例研究を柱にグループワークやロールプレイ，フィールドワークといった効果的，効率的に学習できる授業方法を取り入れています。
- 一つの授業科目を実務家教員と研究者教員によるチーム・ティーチングや全教員参加によって授業展開するといった教員と学生の協働授業形態をとっています。
- 学校現場でのニーズに対応した実習を念頭におき，実習先での事例検討会を柱に実習を展開させることにより，生徒指導の実践的応用力を養成します。



## ● 授業実践・カリキュラム開発コース (定員 15人)

### 授業実践・カリキュラム開発に関する専門的知識をもつリーダー教員の養成

カリキュラム，授業構成・実践，学習評価等について専門的・実践的な知識と技能を有し，授業実践・カリキュラム開発のリーダーとして，授業研究，校内研修，教育委員会における研修等で指導的な役割を担える教員を養成します。

#### ■ 特 色

- 授業実践における学習者への深い理解とそれに基づく高度な指導技術の習得をめざした，授業の基礎理論からその実践的展開までを包括する科目群が用意されています。
- カリキュラムや教材の開発・評価に関する理論と技術を，学校の教育目標，児童生徒や地域の特性等にに応じて活用できる実践力を養成します。
- 授業実践やカリキュラムに関する個人の力量形成だけでなく，それらに関わる学校全体での取り組みや研究の推進に向けて必要な，教員間の協働体制の構築，研修の企画・運営等に関する資質能力を育成します。
- 実習では，各実習校が抱える授業やカリキュラムに関する課題を反映したテーマを設定し，その課題解決に向けて，大学院生，各学校の教員，大学教員が協働して取り組みます。
- ワークショップやシミュレーション，事例分析等を積極的に取り入れ，実践との結びつきを重視した授業を行います。



## ● 教員養成特別コース (定員 10人)

### 学卒者を対象とした実践的対応力・展開力に優れた新人教員の養成

多様な児童の実態を理解し、適切に対応しうる資質能力，授業を構想・展開・省察しうる資質能力，学級集団を適切に形成・運営する資質能力を備え、意欲的に教職に取り組むことができる新人教員を養成します。

#### ■ 特 色

- 実践的対応力を持つ教員として不可欠な児童理解力，授業構想・展開・評価力，学級経営力，協働力について，学校現場（連携協力校）の教員，大学教員が連携して指導します。
- 連携協力校に最長1年6ヶ月関わることにより，児童，学級経営に関して，連続的にとらえることができます。
- 実習科目と連動する演習科目が設定されており，実践での疑問についていねいに指導が受けられるとともに，実践の理論化をともに考えることができます。



## 教員養成特別コースのさらなる特徴

### 教職大学院修了者を対象とした大学推薦枠

平成22年度の教員採用試験から、「教職大学院修了者を対象とした大学推薦枠」を設定する都道府県および政令指定都市が現れました。本学の場合，教員養成特別コースが対象となり，定員10名に対して，多くの推薦枠が設定されます。今後，こうした教職大学院修了生を対象とした大学推薦を設定する都道府県および政令指定都市が増加することが予想されます。

### 採用試験対策

本コースでは，大学全体の採用試験対策とは別に，コース独自の対策を実施しています。小論文，面接などの練習をコースの教員が中心となって実施するとともに，院生相互に刺激し合いながら，筆記試験の勉強をしています。

## 教職大学院の専任教員

教授 <sup>いわ なが</sup> 岩永 <sup>さだむ</sup> 定

専門分野は教育行政学ですが、親・住民、学校、教育委員会の相互関係を教育の地方自治の観点から理論的・実証的に研究しています。特に、学校と家庭・地域の連携による学校改善の方法や保護者・住民からの苦情への対応等について、事例分析等を通じて改善の可能性を探ろうとしています。

教授 <sup>かね まつ</sup> 兼松 <sup>よし ろう</sup> 儀郎

現代日本が直面している教育諸課題をとらえ、今後の教育の在り方を考えるために、特に学校教育における人間形成を中心に、学校教育の日本の特質、学校段階間の接続、初等中等教育における道徳教育等について研究を進めています。

教授 <sup>にし むら</sup> 西村 <sup>きみ たか</sup> 公孝

専門は社会科教育学（公民教育）です。社会形成力育成のための小中高一貫カリキュラム開発や総合的学習の研究支援を行っています。教育現場に出かけて授業研究として「教師の実践力」を探求すると共に、最近では、少子高齢化に対応した男女共同参画社会の創造、国際理解教育、キャリア教育、食育教育などの研究支援にも関わっています。

准教授 <sup>かわ かみ</sup> 川上 <sup>あや こ</sup> 綾子

専門は教育工学・認知心理学です。児童生徒の思考や理解を促進する授業設計・教材開発、また授業におけるコミュニケーション等をテーマとした研究に取り組んでいます。さらに、教師教育の観点から、教師の実践的思考の発達や教員研修のあり方に関する研究も行っています。

准教授 <sup>く が</sup> 久我 <sup>な おと</sup> 直人

学校経営、学級経営及び授業の中で発揮される教師の省察力を中心とした専門性について研究しています。その省察と協働をもとにした学校改善、学級経営改善、そして授業改善の在り方について開発的な研究に取り組んでいます。

教授 <sup>おの せ</sup> 小野瀬 <sup>まさ と</sup> 雅人

教授・学習心理学、学校心理学の立場から、各教科で用いられる様々な教材（教育内容）の効果的な指導法とその評価、授業研究の方法、教師・親・子どものニーズに基づく学習指導の支援（コンサルテーション）、等についての研究を行っています。

教授 <sup>さ こ</sup> 佐古 <sup>ひで かず</sup> 秀一

「元気のでる学校づくり」、これが私の取り組んでいるテーマ（キャッチコピー）です。学校が児童生徒の実態と課題をふまえ、教育活動を自律的、内発的、組織的に改善していくことができるようになるためには、学校の何をどう変えていけばよいのだろうか？ このことを、学校と協力しながら研究をすすめています。

教授 <sup>むら かわ</sup> 村川 <sup>まさ ひろ</sup> 雅弘

専門はカリキュラム開発・教育工学です。特に、生活科や総合的な学習を中心にカリキュラム開発・授業開発、学校のカリキュラム開発力向上のためのワークショップ型研修開発を学校現場と協同的に進めています。現在は各教科、総合的な学習を中心に表現力や言語力、問題解決力等の育成を目指した学習方法開発も展開しています。

准教授 <sup>きの した</sup> 木下 <sup>みつ し</sup> 光二

専門は小学校教育です。幼稚園と小学校の連携を中心に幼児教育や生活科教育、総合的な学習などの研究を行っています。幼稚園と小学校双方の現場経験から、子どもの学びや育ちのプロセス、指導方法やカリキュラム開発、教師教育などについて研究しています。

准教授 <sup>くず かみ</sup> 葛上 <sup>ひで ふみ</sup> 秀文

専門は教育社会学（教師教育、学力問題、生徒指導）です。学校を基盤として教師の専門性を高める教師教育の在り方について、また、厳しい家庭背景を抱える児童生徒の学力を保障する学校の在り方について、学校現場と協働で研究を進めています。

准教授 **小坂 浩嗣**

臨床心理学を専攻しています。学校教員とスクールカウンセラー等の経験をもとに学校教育における生徒理解について教師の共感性、共感的態度、共感的理解を臨床心理学・精神分析的観点から研究しています。また、協働的生徒指導に関する実践的研究にも取り組んでいます。

准教授 **佐藤 亨**

臨床心理学の中でも、非行・犯罪の分野が専門です。17年間にわたり少年鑑別所や刑務所で非行少年や罪を犯した人たちと面接を行ってきた経験を基に、非行少年の抱える傷つきや痛み、その裏返しとしての攻撃性の発現などに興味を持って研究を進めています。また、非行少年と関わる現場での実践活動にも興味を持っています。

准教授 **末内 佳代**

小中学校での教職経験、児童相談所、教育研修センターでの実務経験を生かし、学校臨床心理学に関して関係諸機関、学校現場と連携して実践的な研究に取り組んでいます。

准教授 **廣瀬 隆司**

専攻は、数学教育学です。「算数教育における内包量の重層構造化に関する研究」を中心に研究を進めると共に、教育実践及びカリキュラム開発に関する研究にも取り組んでいます。

准教授 **前田 洋一**

4月から実務家教員として加わりました。28年間福井県の小中学校で勤務してきました。その間、福井県教育研究所での教員研修、教育庁義務教育課での教育行政（人事）、福井県初の教科センター方式の学校づくりなど多様な経験をすることができました。専門は理科教育と教育心理学、教育工学です。

講師 **岩久保 和義**

小学校教育の実践研究、初等理科教育に関する指導法や学習指導の効率化及び、学校経営に取り組んできました。今後は、初等理科教育・メディア教育等における教育技術の研究や人間教師としての学級や学校経営のあり方について考えていきます。

准教授 **阪根 健二**

専門は、学校教育学（生徒指導、学校危機管理、教職論）及びNIE（新聞活用教育）です。

本年度から、本学の臨床心理士養成コースより移籍してきました。今、喫緊の課題となっている生徒指導体制の確立や学校の危機管理において、スクールリーダーの力量形成の支援に取り組んでまいりたいと思っています。

准教授 **芝山 明義**

教育社会学・教育計画論を専攻しています。学校と家庭・地域の連携を進める学校文化・教師文化に関する研究から、子どもを取りまく教育・学習環境の変化に対応できる教職員の専門的資質の向上と、そのための研修の方法・内容の開発に取り組んでいます。

准教授 **豊成 哲**

音楽科教育学を専攻しています。小・中学校の先生方と音楽の教材研究、合唱、合奏活動を通して、音楽を分かち合うとともに、現場の先生方とT・Tを組み、自ら授業を行っています。徳島県教育委員会の先生方とともに、「学習指導」、「生徒指導」、「協働力」の研修の見直しと評価に関する研究も行っています。

准教授 **藤原 伸彦**

専門は認知心理学・教育工学です。研究上の関心は、協同的思考の過程とその支援について。「児童・生徒が考える授業ができる」「自身の実践について省察的に考えることができる」教員の育成を目指し、情報コミュニケーション機器を用いた方法論についての研究やデジタルコンテンツの開発に従事しています。

准教授 **山田 芳明**

専門は美術科教育学です。そのなかでも最近では、図画工作科や美術科における授業に関する教師の力量形成を中心に研究しています。

そのほか、教材開発、指導法、など、実践による知見に基づく研究をしています。

# カリキュラム体系化表（主として現職教員院生向け）

領域	観 点	到達目標 上段:理論的側面(T) 下段:実践的側面(P)	共通科目							
			第1領域		第2領域		第3領域		第4領域	
			教科カリキュラムの内容と構成	学校カリキュラムの開発	学習指導と学習評価	授業実践の分析と改善	子どもの内面理解	ケースカンファレンス	生徒指導・教育相談に関する	学級・学校経営の今日的課題と実践
A 教育的人間力	1 最新の教育動向の理解	T 教育政策や学校改革の動向や事例について知るとともに、それらの背景について理解する	○	○						
		P 教育政策や学校改革の動向との関連で、自校の課題や特徴を捉える		○	○					
	2 社会と関連づけた教育の認識	T 人間の成長発達に占める学校教育の役割や社会・経済的状況と学校教育の関係等、幅広い観点から学校ないし学校教育を理解する								
		P 社会で求められる教育の役割と関連づけながら自校の教育の在り方を考える								
	3 教員の在り方、教員としての省察	T 教員の果たすべき役割、教員の専門性について、理論的に理解する	○		○	○	○		○	
		P 教員の在り方や専門性という観点から、教員としての自己の課題を捉える	○						○	
	4 コミュニケーション	T 様々な背景を持つ人たちと適切にコミュニケーションできる知識・スキルを習得する								
		P 様々な人と適切にコミュニケーションするとともに、集団の中でリーダーシップを発揮したり、コーディネートする								
B 教育実践指導力	5 生徒指導	T 生徒指導、教育相談に関する理論的、専門的な知識やスキルを習得する						○	○	
		P 生徒指導、教育相談のすすめ方について、他の教員に助言・支援する								
	6 学習指導	T 授業の構成、実施、評価に関する理論的、専門的な知識やスキルを習得する	○	○	○	○				
		P 授業の構成、実施、評価に関して、他の教員に助言・支援する			○	○				
	7 学級経営	T 子どもの理解、学級集団の理解に関する理論的な知識や、関連したスキルを習得する				○	○	○	○	
		P 学級集団や学級経営の診断と改善に関して、他の教員に助言・支援する								○
C 学校改善指導力	8 学校分析	T 学校に関する資料をもとに、学校の現状と課題を把握するための知識、スキルを習得する								
		P 勤務校の児童生徒、教職員、学校運営、地域等との連携、等について、具体的なデータ(資料)にもとづき、特徴と課題を明らかにする								
	9 組織運営(マネジメント)	T 学校の教育活動の活性化に結びつく、組織運営(マネジメント)の知識、スキルを習得する		○						
		P 学校組織活性化のための具体的な計画を構想する								
	10 評価改善	T 学校の取り組みを評価するための知識、スキルを習得する								
		P 自校の取り組みとその成果に関する評価を行うことができ、それに基づいてさらなる改善課題を明らかにする								
	11 連携構築	T 外部の関係機関等に関する知識を有し、異校種、家庭・地域、関係機関等と連携をすすめるための知識、スキルを習得する							○	○
		P 連携構築に関する自校の実態と課題を明らかにし、連携構築に向けた構想を具体化する								

※ △：院生の実習課題による

科 目 名																											
領域		専 門 科 目																			実習科目						
第5領域		マネジメント					学校臨床					授業・カリキュラム					学校教育の今日的課題			現職共通		現職コース					
学校経営の実践と課題	コミュニケーション力育成の 実践と課題	学校の今日的課題とその改善	学校組織の分析と開発	家庭・地域との連携構築	学校危機管理の実践と課題	教員の人材育成と研修	教育政策と教育行政	学校カウンセリング	外部機関との連携	学校メンタルヘルス相談	生徒指導・教育相談の実践と課題	学校臨床実践事例研究	教育相談の実践	カリキュラム編成の実際と課題	学習者理解・支援の実際と課題	教材教具の開発演習	授業実践フィールドワーク	教科・研究主任の力量形成	乳幼児から児童期への発達支援と課題	軽度発達障害児への支援と課題	人間の成長と道徳教育	学校アセスメント演習	学校課題演習	学校課題フィールドワークⅠ	異校種フィールドワーク	学校課題フィールドワークⅡ	
○			○				○							○			○										
							○											○									○
							○												○		○						
						○									○	○		○		○	○						○
	○				○							○	○				○	○	○								
	○	○									○														○	○	○
								○	○	○		○	○							○			○				
									○	○															△	△	
														○	○	○	○	○			○		○				
														○	○	○	○	○						△	△		
	○				○			○	○	○				○	○	○			○	○							
		○																						△	△		
○											○											○	○				
		○																						○			
			○								○											○	○				
○						○																○					
																										○	
○					○	○					○																○
																										○	○

# カリキュラム体系化表（学卒院生向け）

領域	観 点	到達目標 上段:理論的側面(T) 下段:実践的側面(P)	共 通				
			第1領域		第2領域		第3
			教科カリキュラムの内容と構成	教育課程の基礎的理解と実践	学習指導と学習評価	教科等指導の基礎的理解と実践	子どもの内面理解
A 教育的人間力	1 最新の教育動向の理解	T 教育政策や学校改革の動向や事例について知るとともに、それらの背景について理解する	○				
		P 教育政策や学校改革の動向との関連で、学校教育の動向を省察する			○		
	2 社会と関連づけた教育の認識	T 人間の成長発達に占める学校教育の役割や社会・経済的状況と学校教育の関係等、幅広い観点から学校ないし学校教育を理解する					
		P 社会の中で求められる学校教育の役割について省察する					
3 教員の在り方、教員としての省察	T 教員の果たすべき役割、教員の専門性について、理論的に理解する	○	○	○		○	
	P 教師としての専門性をのばすため、日々の実践を省察する	○					
4 コミュニケーション	T 様々な背景を持つ人たちと適切にコミュニケーションできる知識・スキルを習得する						
	P 様々な人と適切にコミュニケーションするとともに、集団の中でリーダーシップを発揮したり、コーディネートする						
B 教育実践指導力	5 生徒指導	T 生徒指導、教育相談に関する理論的、専門的な知識やスキルを習得する					○
		P 習得した知識等を活用し、生徒指導、教育相談を実践し、省察する					
	6 学習指導	T 授業、カリキュラムの構成、実施、評価に関する理論的、専門的な知識やスキルを習得する	○		○	○	
P 習得した知識等を活用し、授業等を実践し、省察する				○	○		
7 学級経営	T 子どもの理解、学級集団の理解に関する理論的な知識や、関連したスキルを習得する		○			○	
	P 習得した知識等を活用し、学級経営等に関し、実践し、省察する						
C 協働的改善力	8 協働性	T 協働関係を構築するために必要な知識、スキルを習得する					
		P 協働関係の元で活動に積極的に参画し、省察する				○	
	9 学校組織に関する理解と参加	T 学校の状況と自己の関心を関連づけて、学校の様々な活動を企画できる知識、スキルを習得する					
		P 企画した活動で効果的に実践し、省察する					
	10 家庭、地域に関する理解と参加	T 家庭、地域と関係を構築するための知識、スキルを習得する					
P 家庭、地域と連携した活動に積極的に参画する							
11 異校種、関係機関に関する理解と参加	T 学校間、関係機関との連携を進めるための知識、スキルを習得する					○	
	P 学校間、関係機関の活動に積極的に参画する						

※ △：院生の実習課題による

科 目 名																					
科 目					専 門 科 目										実 習 科 目						
領域	第4領域		第5領域		学校教育の今日的課題			教員養成特別							教員養成特別コース						
	生徒指導・進路指導の基礎的理解と実践	学級・学校経営の今日的課題と実践	学級・学校経営の基礎的理解と実践	コミュニケーション力育成の実践と課題	教育の今日的課題とその改善	乳幼児から児童期への発達支援と課題	軽度発達障害児への支援と課題	人間の成長と道徳教育	教科教育実践研究A	教科教育実践研究B	実践課題研究	学校基礎演習Ⅰ（授業実践）	学校基礎演習Ⅱ（子ども理解・学級経営）	学校総合演習Ⅰ（学級理解）	学校総合演習Ⅱ（学校理解）	基礎インターンシップⅠ（子ども理解）	基礎インターンシップⅡ（授業実践）	基礎インターンシップⅢ（学級経営）	総合インターンシップⅠ（学級理解と実践）	総合インターンシップⅡ（学校理解と実践）	総合インターンシップⅢ（総合理解と実践）
								○													
									○												
○				○	○		○														
				○			○	○													
	○											○	○								
				○								○	○	○							
				○															○	○	○
○							○						○	△	△	○					
○																○				△	△
								○	○	○	○	○		△	△		○				
									○	○	○									△	△
	○										○										
				○																	
					○												○	○			
														○	○						
																				○	○
○																			○		
																			○		
																○					
																				○	○

## 現職教員院生に対する優遇措置

### 授業料特別免除について

大学院修学休業制度による進学の場合、休業期間中の給与は支給されませんが、基本的に所属長及び教育委員会の承認のみで出願、進学することができます。教員としての身分は休業期間中も保障されています。本学では、この制度で進学してきた現職教員を対象として、授業料を最大全学免除する支援策として、授業料特別免除制度を用意しています。

### 教職大学院生(現職教員)支援基金について

本学では、教職大学院生(現職教員)の勤務校実習に係る往復旅費等の負担軽減に資するため、平成21年4月から支援金貸与の制度を設けています。この制度では、在学中、20万円までを上限として無利子で貸与し、修了等の月の翌月から1年以内一括又は分割で返還いただくものです。

## 取得できる教員免許

本学教職大学院では、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、養護教諭及び幼稚園教諭の各専修免許状取得の授与資格を得ることができるよう、授業科目を開設しています。所定の単位を修得することにより授与資格を得ることができる教員免許状の種類は、次の表のとおりです。

なお、専修免許状の授与資格を得ようとする場合は、その免許状(中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状については、その免許教科)に係る一種免許状を有することが必要です。

専攻・コース		教員免許状の種類	
高度学校教育実践専攻	学校・学級経営コース	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 <table border="1"> <tr> <td>国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教</td> </tr> </table>	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教
	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教		
	学校臨床実践コース		
	授業実践・カリキュラム開発コース	高等学校教諭専修免許状 <table border="1"> <tr> <td>国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 農業, 工業, 商業, 水産, 商船, 福祉, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教, 情報</td> </tr> </table>	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 農業, 工業, 商業, 水産, 商船, 福祉, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教, 情報
国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 農業, 工業, 商業, 水産, 商船, 福祉, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教, 情報			
教員養成特別コース	幼稚園教諭専修免許状 養護教諭専修免許状		

### 現職教員院生の免許の上進について

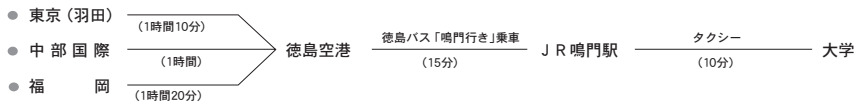
注意事項：本専攻では実習科目により、決められた時間、大学を離れる必要があります。したがって、免許を上進するための授業科目の履修は、本専攻の修了要件に基づく2年間を通した履修計画を立てた上で行うようにしてください。

# 鳴門教育大学の位置図



## ●鳴門教育大学への交通機関

＜東京・名古屋・福岡方面から＞  
徳島空港利用

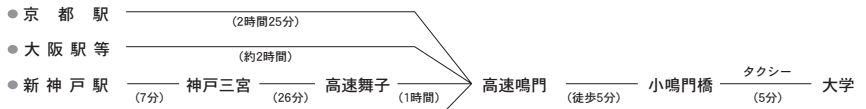


＜東京方面から＞ 高速バス利用



＜京都・大阪・神戸方面から＞

高速バス利用



車利用



＜大阪関西国際空港方面から＞  
高速バス利用



＜高松方面から＞

JR利用



車利用



＜徳島方面から＞

バス利用

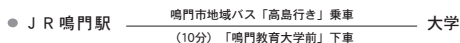


JR利用



＜JR鳴門駅から＞

バス利用





国立大学法人

**鳴門教育大学**

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地

ウェブページアドレス <http://www.naruto-u.ac.jp/>

● 教育内容等に関する問い合わせ(教務課) TEL088-687-6598

● 入試に関する問い合わせ (入試課) TEL088-687-6131